

アイヌ施策推進地域計画 目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
白老町	白老町アイヌ施策推進地域計画	令和6年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) B/A	備考
①イオル事務所「チキサニ」利用者数	2,550 人/年間	2,176 人/年間	85.33 %	
②慰霊施設来場者数	2,700 人/年間	2,370 人/年間	87.78 %	
③アイヌ料理やアイヌの方々に縁のある食材を用いた郷土給食提供食数	3,000 食/年間	3,154 食/年間	105.13 %	4 回実施
④ウポポイ年間パスポート町民対象無料券引換人数	4,800 人/年間	3,059 人/年間	63.73 %	
⑤アイヌ文化プロモーションイベント来場者数	15,500 人/年間	12,480 人/年間	80.52 %	東京、京都
⑥食による来訪者おもてなしイベント来場者数	7,100 人/年間	9,900 人/年間	139.44 %	
⑦アイヌラッピングバス利用者数	40,000 人/年間	46,888 人/年間	117.22 %	町内循環バス、デマンドバス、交流促進バスの利用者数
⑧臨時改札利用者数	34,500 人/年間	31,093 人/年間	90.12 %	
⑨生活館利用者数	19,600 人/年間	16,730 人/年間	85.36 %	
⑩全国学力等調査による平均正答率の全道平均との差	0.0 点	-1.8 点	—	
⑪台湾との文化交流事業への双方の参加者数	20 人/年間	40 人/年間	200.00 %	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
①イオル事務所「チキサニ」利用者数	イオル事務所「チキサニ」において開催しているアイヌ文化に関する各種体験事業については、安全対策を考慮した募集定員を設定していることなどもあり、利用者数の達成率は85.33%となった。	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
②慰霊施設来場者数	慰霊施設の来場者数は目標値には至らなかったものの、令和5年度より9.6%（208人）の増となっており増加傾向にある。	
③アイヌ料理やアイヌの方々に縁のある食材を用いた郷土給食提供食数	アイヌ民族に縁のある食材を用いた郷土給食提供食数については、給食提供の業務にあたる担当者の努力等もあり、提供食数の達成率は105.13%と目標値を上回る結果となった。	
④ウポポイ年間パスポート町民対象無料券引換人数	<p>より多くの町民に引換えしていただくため、町の広報誌やSNS等を活用し定期的に周知を行ったほか、町民が集まる様々な場面において引換えについての呼びかけを行いました。残念ながら引換人数の達成率は63.73%に留まった状況となった。</p> <p>このことから、今後においてもウポポイと連携し、町民がウポポイへ何度も行きたくなるような仕掛けが必要である。</p>	
⑤アイヌ文化プロモーションイベント来場者数	令和5年度までは東京をはじめとする道外の大都市3カ所においてプロモーションイベントを開催してきたが、令和6年度については東京と京都の2カ所での開催になったこと、また、東京（代々木公園）において開催した際は雨天であったことなどもあり来場者数の達成率は80.52%と目標値には至らなかった。	
⑥食による来訪者おもてなしイベント来場者数	本イベントは令和元年度から開催していることで認知度が高まってきていること、また、来場意欲を掻き立てるようなイベント企画を行っている成果として、来場者数の達成率は139.44%と目標値を大きく上回った。	
⑦アイヌラッピングバス利用者数	ウポポイによる特別展や各種イベントの開催、町内の観光施設や商業店舗等による来訪者の増加に向けた取り組みを行ったこと、また、特に交流促進バス「ぐるぼん」が多くの方に認知されてきたことや「元気号」の利用も増えたことで、利用者数の達成率は117.22%と目標値を上回った。	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
⑧臨時改札利用者数	近年、JR以外にもレンタカーやバスなど他の交通手段を利用する来訪者も増えてきていることなどもあり、利用者数の達成率は90.12%となった。	
⑨生活館利用者数	令和5年度に改築し令和6年4月から供用開始となった白老生活館の利用者数は大幅に増加した。一方で、町内の生活館のうち4館は選挙の投票所としても利用されているが、令和6年度については例年より選挙が少なかったこともあり、利用者数の達成率は85.36%となった。	
⑩全国学力等調査による平均正答率の全道平均との差	令和6年度においては、算数・数学が全道平均と比較して低い結果となったため、目標値を下回る結果となった。	
⑪台湾との文化交流事業への双方の参加者数	令和6年度については、本町と友好交流推進協定を締結した台湾の自治体（花蓮県秀林郷）へ、本町から10名が初訪問した結果、秀林郷の皆さま（約30名）による手厚い歓迎により有意義な文化交流を行うことができたことから、本事業への双方の参加者数の達成率は200%となり目標値を大幅に上回る結果となった。	

本町のアイヌ施策推進地域計画において、数値目標を11項目設定しているが、令和6年度については、そのうち4項目が目標値を上回る結果となった。

なお、目標値に達しなかった7項目のうち「ウポポイ年間パスポート町民対象無料券引換人数」の達成率は60%台に留まったものの、その他の項目は80%以上の達成率となったため、今後においても、さらに達成率が上がるよう引き続き関係機関等と連携を強化し、達成率の向上を目指すものとする。

## 2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

（文化振興事業：伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
<p><b>【空間活用等事業】</b></p> <p>■ ポロト地区、フシコベツ川、ポロト自然休養林地区において、アイヌ文化の保存伝承活動に必要な樹木やアイヌの有用植物を生育している周辺の雑草の除去、鹿食害対策、生育観察及び定期巡視など、アイヌ文化に関する体験交流事業を行う際の自然素材の維持管理を行った。</p>	白老町

<p>■ 白老町におけるイオル再生事業の普及啓発のための拠点施設「しらおいイオル事務所 チキサニ」の管理運営のほか、一般の方々に 対しアイヌ民族の歴史や文化に関する学習の機会や情報を提供する 場として、各種体験事業を実施し多くの方々に来訪いただいた。</p> <p>【自然素材育成事業】</p> <p>■ 森野地区、ヨコスト地区において、アイヌの有用植物、穀物及び 体験用野菜の試験栽培を行った。体験用野菜として栽培したジャガ イモ、カボチャ等は順調に生育し収穫体験の際に活用した。</p> <p>【体験交流事業】</p> <p>■ 地域の関係団体と連携を図り、しらおいイオル事務所「チキサニ」 や植栽エリアを活用し、四季折々のアイヌ文化に関する各種体験事 業を実施した。</p> <p>《令和6年度の実績》 全22事業、参加者683名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 海のイオル 地引網体験2回 280名、食文化体験16名</li> <li>➢ 山のイオル 野外学習14名、森のアイヌ文化体験7名、 穀物採取体験40名、冬の遊び10名</li> <li>➢ 川のイオル マレク・サケの解体等2回 53名</li> <li>➢ アイヌ文化体験・体感交流事業 教職員対象 延べ38名（道内の教職員向け）</li> <li>➢ ミニ体験交流事業 ペネイモ作り、オオウバユリ採取加工、ゴザ編み、 サッチェア作り等 計11回 延べ174名</li> <li>➢ アイヌ文化の普及啓発出前講座 出前講座 計3回 51名</li> </ul>	
<p>事業の効果</p>	
<p>アイヌ文化の普及啓発活動やイオル再生事業に必要な自然素材の維持管理が適正に行われたと ともに、アイヌ文化の理解促進に寄与する様々な体験事業を実施したことにより、アイヌ文化への 関心や普及啓発に寄与した。</p>	

(文化振興事業：アイヌ文化保存・伝承活動推進事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>白老地域のアイヌ文化を確実に次代に継承することを目的に、育成プロ グラムに基づいた伝統手工芸の担い手育成のための事業を実施した。</p> <p>■ 木彫講座、料理講座、アイヌ文化伝承者や自然ガイド育成のための 文化や歴史に関する講座・視察研修を実施。</p> <p>■ 町内で活動するアイヌ文化工芸品制作者やサークル団体等と連携 し、アイヌ文化工芸品PR展示会を開催。</p> <p>■ 白老歴史伝承事業として、町内のエカシ・フチの3名から白老地域 のコタンのこれまでの歴史や旧アイヌ民族博物館時代の出来事など の聴き取り調査を実施。</p>	<p>白老町</p>

<p>■ アイヌ文化の復興と理解促進、アイヌ語継承人材の育成を目的にアイヌ語研究のための教室を開催。</p> <p>ローマ字筆録からの発音読み起こし、アイヌ語の日本語翻訳、研究活動及び編集作業を行った。</p> <p>成果品（書籍）は、北海道博物館、札幌市アイヌ文化交流センター、北海道立アイヌ総合センターなどへ配布。</p> <p>■ アイヌ古式舞踊やアイヌ民族の伝統文化を次代に継承していくためには舞踊の技術も重要であるが、アイヌ古式舞踊や儀式を支えていくためには、儀式で用いるアイヌ民族の伝統的な衣装やゴザ、キナ、臼、杵などを制作できる技術が必要となるため、今年度はアイヌ民族の衣装であるルウンペ、チヂリ、カパラ等を制作した。</p>	
<p>事業の効果</p>	
<p>■ 白老地域のアイヌ文化を確実に次代に継承することを目的に、育成プログラムに基づいた伝統手工芸の担い手育成のため各種講座を行ったことで、アイヌ文化や歴史を参加者自ら伝承していく意識を深めることができた。</p> <p>また、町内で活動するアイヌ文化工芸品制作者やサークル団体と連携し、アイヌ文化工芸品PR展示会を開催したことで、制作過程での情報交換やより高度な技術を磨く意欲の向上に繋がり、アイヌ文化普及啓発活動のさらなる推進と展示会場である中心市街地（大町商店街）への回遊性向上効果も得られた。</p> <p>■ 町内のエカシ・フチからの聴き取り調査を実施したことで、白老地域の歴史について古老から学ぶことができたとともに、後世へ語り継ぐための取り組み強化にも繋がった。</p> <p>■ アイヌ語研究のための教室を開催したことで、失われつつあるアイヌ語を保存し、地域の方々が主体となってアイヌ文化の伝承活動を推進していく意識を高めることができた。</p> <p>また、成果品（書籍）を北海道博物館、札幌市アイヌ文化交流センター、北海道立アイヌ総合センターなどへ配布したことで、アイヌ語研究に携わる他団体と共有し、さらなるアイヌ文化普及啓発活動の推進に繋げることができた。</p> <p>■ アイヌ古式舞踊やアイヌ民族の伝統文化を次代に継承していくため必要なアイヌ民族の伝統的な衣装であるルウンペ、チヂリ、カパラ等を伝承者が講師のもと、アイヌ文化を継承していくメンバーで制作したことにより、アイヌ民族の伝統技術を継承できたとともにアイヌ古式舞踊やアイヌ民族の伝統文化の継承活動に寄与することができた。</p>	

（文化振興事業：アイヌ伝統等普及啓発事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>【① 学校給食】</p> <p>■ 町内小中学校の給食におけるアイヌ文化に関する食材を活用したメニュー（ふるさと給食）の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ アイヌ伝統料理（オハウ等）を年4回提供</li> <li>➤ アイヌ文化に関する食材や食文化等の説明用チラシを学校や各家庭へ配布</li> <li>➤ アイヌ文化に関する食材カレンダーの毎月発行</li> </ul>	<p>白老町</p>

<p><b>【② ふるさと学習】</b></p> <p>■ 町内小中学校のふるさと学習におけるアイヌの伝統や文化の理解促進のための体験学習（古式舞踊・子どもの遊び・伝統食の試食・アイヌ文様切り絵制作・アイヌ文様彫刻・アイヌ文様刺繍・ムックリ制作演奏）を実施した。</p>	
<p>事業の効果</p>	
<p><b>【① 学校給食】</b></p> <p>■ 町内小中学校の給食において、アイヌ文化に関する食材や調理法を活用したメニューの提供とともに、食材カレンダー、説明用チラシ、町ホームページにおけるアイヌ文化に関する食材及び食に関するコラム、献立メニューの紹介を掲載したことで、アイヌ民族の食文化に関する理解促進を図ることができた。</p> <p><b>【② ふるさと学習】</b></p> <p>■ 町内小中学校のふるさと学習において、児童生徒の年齢に応じ、アイヌ古式舞踊・子どもの遊び・伝統食の試食・アイヌ文様切り絵制作・アイヌ文様彫刻・アイヌ文様刺繍等の多様な体験学習を実施したことにより、楽しみながら地域のアイヌ文化を理解する機会を創出し、義務教育期における児童生徒への地域のアイヌ文化の理解を一層深めることができたとともに、ふるさとへの愛着や誇りを育むことができた。</p>	

（文化振興事業：ウポポイ町民利用促進事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>■ 高校生以上の町民を対象にウポポイ年間パスポート無料引換ハガキを郵送し、ウポポイの窓口において年間パスポートを取得していただいた。</p> <p>■ 引換分の年間パスポートの料金（大人 2,000 円、高校生 1,000 円）を町が負担する方式で実施。</p>	<p>白老町</p>
<p>事業の効果</p>	
<p>■ 町民向け年間パスポートの引換ハガキを送付したことにより、ウポポイ内でのイベント等に気軽に参加できる機会を創出したことで、町民がウポポイを訪れる利便性を向上させることができ、ウポポイへの誘客促進に寄与した。</p> <p>《令和 6 年度のウポポイ年間パスポートの町民無料引換件数》 3,059 名（大人 3,026 名、高校生 33 名）</p>	

（地域・産業振興事業：アイヌ文化関連の観光プロモーション・商品開発事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>■ ウポポイ、白老地域のアイヌ文化及び白老町の地域資源や観光PRを目的とした道外の都市部におけるプロモーション活動を実施した。</p> <p>《令和 6 年度の道外プロモーション開催地》東京都、京都市</p> <p>■ 町外からの来訪者が迷うことなくウポポイへ行けるよう、町内の主要箇所の電柱（84 本）に案内誘導看板を継続して掲示。</p> <p>■ 白老地域のアイヌ文化の価値をさらに高めるための新商品開発に向</p>	<p>白老町</p>

<p>けた調査研究等を行った。</p> <p>■ アイヌ文化の普及啓発とウポポイへのさらなる誘客促進のためのプロモーション等において、欠かすことのできないPRツールである白老町の観光情報も盛り込んだ魅力的なパンフレットを作成。</p> <p>(外国人観光客の利便性と満足度を高めるため多言語対応版も作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 日本語版 50,000部</li> <li>➢ 多言語版(英語・繁体字・簡体字・韓国語) 各2,000部</li> </ul>	
<p>事業の効果</p>	
<p>■ 道外プロモーションにおいて使用する各種パンフレットと併せて配布する普及啓発用のノベルティを、町内のアイヌ関連団体と連携のうえ準備しPRイベントにおいて来場者へ配布したことで、ウポポイ、地域のアイヌ文化、白老町の観光PRに加え、ウポポイPRキャラクター「トゥレップン」の周知や普及啓発にも寄与した。</p> <p>■ 令和6年度に実施した道外2都市(東京、京都)でのPRイベントにおいて、延べ12,480人の来場者に対して、ウポポイ、地域のアイヌ文化及び白老町の魅力を発信することができた。</p> <p>来場者との対話の中で「昨年もしくは今年ウポポイへ行った」、「ぜひ、ウポポイへ行ってみたい」など、多くの方々から嬉しいお話を聞くことができたとともに、京都においてもウポポイの認知度が高まっていること、また、興味を持っている方が多いことも直に実感することができた。</p> <p>■ 町内主要箇所の電柱(84本)にウポポイへの案内誘導看板を継続掲示したことで、町内の機運醸成と来訪者への利便性向上に寄与することができた。</p> <p>■ これまで、アイヌ政策推進交付金を活用しアイヌ関連団体において商品開発事業を行ったことで、新商品を検討・開発していくための流れや検討体制の構築・商品化後の販売展開など、これまでの実績において蓄積したノウハウを活かし、今後における新商品開発事業を推進するための基盤を構築することができた。</p> <p>■ ウポポイをはじめとしたアイヌ文化、豊かな食資源・特産品・観光資源等、旅行者が求めている情報をパンフレット一冊で網羅できる仕組みとしたほか、タビナカの深掘りのため二次元コードを活用した各店舗への誘導機能も設置し充実化を図った。</p> <p>そのほか、町内での滞在時間の延長促進を図るため、モデルコースを掲載したとともに、アイヌ文化の周知を目的に専用ページを作成し、ウポポイや白老地域のアイヌ文化へ興味関心を引く内容を作成。</p> <p>言語については、ウポポイなどに訪れるインバウンド向けに多言語版(英語・繁体字・簡体字・韓国語)を作成したことで、国内はもとより海外の方々への情報発信や利便性の向上に寄与することができた。</p>	

(地域・産業振興事業：食による来訪者おもてなし体制整備事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>■ ウポポイ及び中心市街地周辺の賑わい創出や来訪者の回遊性向上のため、ウポポイと白老駅との動線上に立地するポロトミンタラ(白老駅北観光インフォメーションセンター)を中心とした白老駅北観光商業ゾーンを会場におもてなしイベントを開催(7月と9月に計4日</p>	<p>白老町</p>

間) し、本町のアイヌ文化や豊かな食資源、特産品、観光資源など、多様な魅力を幅広く発信可能となる体制を構築した。	
事業の効果	
<p>■ 令和6年度については、おもてなしイベントを7月と9月に計4日間開催し9,900人の来訪者で賑わった。</p> <p>このことにより、ウポポイとの連携のほか、地域のアイヌ文化、豊かな食資源・特産品・観光資源など、本町の有する多様な魅力を発信し、町内外からの多くの来訪者に体感いただくことができたとともに、中心市街地への賑わい創出にも寄与した。</p>	

(地域・産業振興事業：アイヌ文様ラッピングバス運行事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>■ 地域住民の交流の場、ウポポイ及びアイヌ関連施設等を拠点にアイヌの方々をはじめとした地域住民や来訪者の交通の利便性を確保するためにアイヌ文様ラッピングバスの運行のほか、さらなる利便性向上のための運行改善に向けたダイヤ・ルートの変更検討調査などを行った。</p> <p>《運行車両》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域循環バス 元気号 (マイクロバス)</li> <li>➤ デマンドバス カムイ号 (ハイエース)</li> <li>➤ 交流促進バス ぐるぼん (日野ポンチョ：小型バス)</li> </ul>	白老町
事業の効果	
<p>■ 令和6年度についても、アイヌの方々をはじめとする地域住民と来訪者等の交通利便性を確保することを目的に、交流促進バス(ぐるぼん)、地域循環バス(元気号)の運行や10人乗り車両(カムイ号)による予約に応じたドア・ツー・ドアで運行するデマンドバスの運行を行ったほか、利用者の利便性向上のためダイヤ・ルート改正等の取り組みを行ったことで、アイヌの方々をはじめとして、ウポポイや本町への来訪者の利便性の向上を図ることができた。</p>	

(地域・産業振興事業：公共交通利便性向上のための受入体制整備事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>■ ウポポイの開業に伴う来訪者をはじめとしたJR利用者の増加を見据え、乗換こ線橋とウポポイへの動線である白老駅自由通路を直接行き来することができる臨時改札口を設置し、一般社団法人白老観光協会が臨時改札口の管理運営業務を行っている。</p> <p>➤ 臨時改札口の管理運営業務 (切符の集札・定期券の確認、利用人数把握、日報作成、パンフレット等による観光案内等)</p>	白老町
事業の効果	
<p>■ 臨時改札口の設置により、ウポポイへの来訪者のほか、アイヌの方々をはじめとする町民の移動の利便性向上に寄与した。</p> <p>また、来訪者に対し、必要に応じてスタッフがウポポイのご案内や観光案内を行うなど、効果</p>	

的な観光PR等を行うことができた。

《令和6年度の利用実績》31,093人

(コミュニティ活動支援事業：生活館改修・交流事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>■ 町内の生活館のうち、老朽化が著しかった白老生活館を令和5年度に改築工事（建物本体、物置及び外構の一部：路盤工事等）を実施。令和6年度については、引き続き、残りの外構工事（アスファルト舗装、外灯及び案内看板の設置）を実施。</p> <p>《多機能型生活館整備事業》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 令和6年度施行 白老生活館改築（外構）Ⅱ期工事</li><li>➤ 令和6年度施行 白老生活館改築（外構）Ⅱ期工事 その2</li></ul> <p>■ そのほか、施設の経年劣化により不具合が生じていた生活館4館（川沿、萩野、北吉原本町、竹浦）の不具合箇所の改修工事を実施。</p> <p>《生活館改修事業》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 竹浦生活館水抜栓取替工事</li><li>➤ 各生活館改修工事（川沿、萩野、北吉原本町生活館）</li></ul>	白老町
事業の効果	
<p>■ 白老生活館を多機能型生活館として改築したことにより、アイヌ文化の保存伝承活動を行っている様々なアイヌ関連団体やアイヌ工芸品制作サークルの活動に大いに活用されているほか、アイヌの方々をはじめとする町民の様々なコミュニティ活動の場としても広く利用されている。</p> <p>■ 老朽化による破損等により不具合が生じていた町内の生活館4館（川沿、萩野、北吉原本町、竹浦）の改修工事を行ったことにより、利用者が安全かつ快適に利用することができるようになったことから利用者の利便性の向上に大いに寄与した。</p>	

(コミュニティ活動支援事業：アイヌ文化等を担う人材育成のための子どもの学習支援事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>■ 町内の小中学校（6校）に学習支援員を各1名配置し、習熟度別授業の補助、複式学級授業の補助、放課後及び長期休暇中補習授業などを行った。</p>	白老町
事業の効果	
<p>■ 本町の教育指針である「白老町スタンダード」に基づいた【学習環境の充実（学習の確実な定着）】による学力向上、また、各校が抱える学習課題克服による児童生徒の学力向上のために学習支援員を配置し、苦手教科の重点的対策や主要教科及び主要教科以外の教科、生活支援を含めた総合的対策による学習の確実な定着を目指し、習熟度別授業や複式学級授業のほか、放課後の補習授業等、各校の実情に応じた形態の学習支援を行ったことで、児童生徒の習熟度向上による基礎学力の定着化が図られたとともに、次年度以降の学力向上に向けた体制が維持できた。</p>	

(コミュニティ活動支援事業：台湾との文化交流事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
■ 令和4年8月に台湾の花蓮県秀林郷と友好交流推進協定を締結したことを契機に、一般財団法人アイヌ民族博物館があった時代から行っていたアイヌ民族と台湾原住民による文化交流をさらに深めるため、町内のアイヌの方々をはじめとした訪問団10名により秀林郷へ訪問し、秀林郷の方々（タロコ族の方々）との文化交流を行った。	白老町
事業の効果	
■ 今回、町内のアイヌの方々が秀林郷へ訪問し、台湾の原住民族であるタロコ族の方々と直接交流したことで、先方より先住民族文化の復興等を学んだことから、今後、この経験を活かした事業展開を行い、白老地域のアイヌ文化の保存・伝承・発展に大いに寄与することができた。	

3. 今後の方針等

<p>本町は、令和6年度から白老町アイヌ施策推進地域計画の第二期目に入ったことから、第一期で培った5年間の実績や成果を踏まえ、さらに町内のアイヌ関連団体やその他の関係機関との連携を密にし、ウポポイへの誘客活動の強化はもとより、アイヌ文化の普及啓発、地域のアイヌ文化の保存伝承の推進とともに、次代を担っていく人材の育成や組織体制の強化を図るための取り組みを推進するものとする。</p>
---